

## Y22c 天文普及におけるプラネタリウムの活用法・2

栗野諭美(岡山天文博物館)、一守辰也、岡崎直美、原田茜、原田幸子、原田浩、原田みずほ、中川康己、西山広太、山下健一郎(以上 アストロクラブ)

一般的にプラネタリウムは「見に行く」もので、自分達が「触れて使うことは難しい」という認識を持っている人が多い。また最近、ミニシアター感覚で捉えている人も多く、本来の醍醐味である、星空の楽しみ方・学び方を知らない人も少なくない。

岡山天文博物館では、平成15年度よりプラネタリウム体験講座「アストロクラブ」の活動を進めてきた。講座では、参加者自らがプラネタリウムの活用法を学び、実際に機械に触れ、投影も体験する。また、オリジナル番組の制作も手がけ、それに必要な天文学の知識、情報の収集、制作にかかわる作業など、すべてを自分達で行っている。(2005年秋季年会参照)

本研究は、プラネタリウムを「番組を見せる道具」としてだけでなく、「実際に触れ、自分達のメッセージを自由に表現する道具(参加型プラネタリウム)」として一般の人達に広く公開することで得られる、教育普及効果の調査を目的としている。また講座で作成した素材等は、関係施設や学校等でも共有できるように、DVD等での配布を予定している。

今回は、本研究の経過報告とともに、講座の活動報告や今後のプラネタリウムの活用法についても提案したい。